

## 目標達成計画

事業所名：グループホームしづく

作成日：令和3年3月2日

市町村受理日：令和3年3月10日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	25	① 自然災害時の移動訓練、救急救命訓練がコロナ禍の影響で、再度実施ができていない ② 近隣住民とのサークル活動について、コロナ禍で延期・後、廃止となっており、再構築が必要も、軒並み中止となって機会がない	① 移動訓練に関しては、自施設又は、同法人近隣施設との連携の上、感染症において近隣住民の参加がなくとも、実施をする ② 感染症の動向・開催状況次第ではあるが、参加するとともに、広く施設の状況を開示する	① まずは、同法人内共同実施の計画を立案、また、近隣住民の方が参加した場合の想定計画を並行して実施 ② 火災総合訓練については、町内会より告知の内諾を得ているので、それに追加してホームの状況を告知できないか等、さらなる連携を図る	①令和3年9月末まで ②令和3年7月末まで
2	19	① 家族アンケート集計結果評価すると、少数ではあるが、ご家族間との関係構築において非常に厳しい評価を頂戴したと評価している ② 例えば、「運営推進会議の内容などをご家族に案内する等」外部評価の際に助言。ホームにおける従来の手法にこだわりすぎた懸念	① 今回以上の結果を導き出せるよう、体制変更にてクリアできるものから鋭意実施していく ② 運営懇談会の内容・質問状を送付し、丁寧に対応していく	①② 短期的に取り掛かれるものについて、迅速に対応できるものは運営懇談会についての取り扱いの変更であり、まずはその体制変更から実施する	①②令和3年5月末まで
3	60	① 新型コロナウイルスが広く流行していること ② ワクチン・治療薬ができようとも、高齢者は他世代と比較すると相対的に高リスクであり変わらないこと ③ ①②の理由から、現情勢下において外出支援などの社会的コンセンサスが得られにくいこと	①② 特になし ③ 社会的コンセンサスが得られたときに、素早く行動ができるよう、家族と継続的にコンタクトをとること	①② 特になし ③ 希望入居者、新型コロナワクチン全員接種後において、リモート面会以外の相対的低リスクな面会方法を実施し対応していく。具体的には、アクリル板・ビニールシートの活用・面会時間の制限など。その後、社会情勢や近隣施設の動向などをみながら暫時拡大する	①② 特になし ③ ワクチン接種後速やかに
4	40	① 職員の入れ替わりで、調理にかける手間、共同作業を部分的に省略している	① グループホーム本来の食事の準備・調理・後片付けのできる体制を構築する	① 職員の補充と体制の再構築を実施する	① 令和3年5月より3か月以内
5	43	① 最近、自力でできていた方が一部介助が必要な状況になってきている。清潔の保持ができなかったり、皮膚トラブルにつながるが対応についてスタッフ個々ばらつきがあり、パターンがつかめない。	① トイレ介入に関しての、利用者との関係構築 ② パターン把握のための、統一した対応	① 認知症利用者の中核症状を再度理解し、根拠あるかわりを実施していく ② 継続的なカンファレンスの実施。記録の充実	①② 令和3年4月より1年間
6	47	① 服薬支援については、特段問題がなく行われているが、本人の心身の状況と結びついておらず、業務と化しているため、日々のケアに生かされていない	① 基本的医学や服薬支援の目的について、研修を通し理解を深める ② 受診付き添いを通じ、医師と直接対応することにより得るものも多い。受診対応できる職員の幅を広げる ③ 服薬支援方法の再見直し	① 研修の参加・実施 ② OJTの実施 ③ 服薬支援方法の検討	①～③ 令和3年より1年以内

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。